思春期の子どもをもつ母親の養育ストレスと心理的ストレス反応，養育態度との関連

渡　邉　賢　二

要旨：本研究は，思春期の子どもをもつ母親の養育ストレス尺度を作成し，母親の養育ストレス尺度は子どもの性別や学年によって相違が認められるのか検討した．また，母親の養育ストレスと心理的ストレス反応，養育態度との関連について検討した．母親の養育ストレス尺度を作成するために，中学生の母親から自由記述により項目を収集し，その後，質問紙調査を実施した．因子分析の結果，「親子関係」，「勉強」，「不適切な行動」，「友人・異性」の４因子を見出すことができた．母親の養育ストレス尺度下位尺度を子どもの性別と学年による２要因分散分析を実施した結果，勉強について，中学２年生と３年生の母親より中学１年生の母親の方が，女子の母親より男子の母親の方がストレスを感じていた．次に，母親の養育ストレスが心理的ストレス反応を予測するのか，母親の養育ストレスと心理的ストレス反応が養育態度を予測するのか検討した結果，抑うつ・不安には親子関係と勉強から，不機嫌・怒りには親子関係から正のパスが有意であった．理解尊重スキルには親子関係，不機嫌・怒り，無気力から負のパスが，不適切な行動から正のパスが有意であった．心理的統制には親子関係，勉強，友人・異性，不機嫌・怒りから正のパスが有意であった．母親の養育ストレスと心理的ストレス反応が養育態度を予測することが明らかになった．

キーワード：母親の養育ストレス，思春期，心理的ストレス反応，養育態度

【問題・目的】

思春期の子どもは，身体的・性的な変化，アイデンティティの問題，また中学生へ学校移行することにより，友人関係や教師との関係の変化，学習の困難さなど，多様な変化や問題が顕在化してくると言われている．思春期はそのような変化や問題のほかに，親から自立しようと心理的に離乳していき，親子の葛藤が生じやすくなる時期であるとも言われている（西平，1990；落合・佐藤，1996）．このような日常の子どもとの関わりの中で生じる葛藤や養育によって，親もストレスを抱えることが考えられる．

これまで，米国では親子間葛藤の研究は盛んに行われてきている．例えば，Klahr, Rueter, McGue, Iacono, & Burt（2011）や Harold, Aitken, & Shelton（2007）は，親子間葛藤の頻度が子どもの反社会的行動を予測すること，親子間葛藤がネガティブな養育態度，また学業成績に影響を及ぼすことを報告している．しかし，これらは親子間葛藤が子どもに影響を及ぼすことに焦点をあてており，親側の視点の研究ではない．親も思春期の子どもの養育に関してストレスを抱えていることも考えられる．

我が国では，杉村・竹尾・山﨑（2007）が青年－両親間の葛藤場面における青年の行動と意見の伝え方，葛藤解決行動について調査を行い，青年は家庭内では自分の欲求を主張するが，家庭外では友人に配慮した自己主張をすると述べている．また白井（2015）は高校生とその母親に対して親子間葛藤について調査を行い，親子間葛藤を経験することによって，自律が達成されるだけでなく，愛着が回復していくという結果を見出している．これらも親側に焦点をあてた研究ではない．

思春期の子どもではなく，乳幼児の母親を対象として，育児ストレスに関する研究や（前田・中北，2017など），障害児の親のストレスに関する研究は数多く行われている（Jennifer, Judith,

Rosemary, & Jennifer, 2010）．乳幼児に対する育児ストレスや障害児の親のストレスとは相違はあるが，思春期の子どもをもつ親も子どもとの葛藤があり，養育に関するストレスを抱えていると考えられる．しかし，先述したように，思春期の親子間葛藤の研究は数多くあるが，思春期の子どもをもつ親の養育ストレスに関する研究はあまり見当たらない．

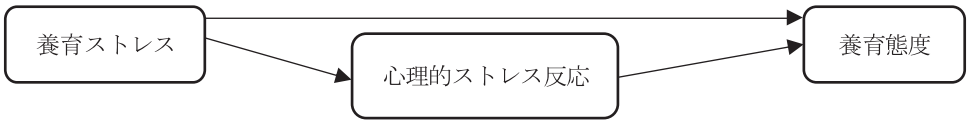
これまでに，米国での親子間葛藤の研究は，面接調査や質問紙調査などを用いて，盛んに行われてきた（Dekovic, 1999; Klahr, Rueter, McGue, Iacono, & Burt, 2011; Smetana, 2011）．その中で質問紙調査を用いた研究では，Conflict Behavior Questionnaire（以下 CBQ）や Parent Environment Questionnaire（以下 PEQ）の親子間葛藤尺度が用いられて，研究が進められてきた．CBQ は，青年期の子どもとその親が家庭で，どの程度のコミュニケーション葛藤行動をおこしているか測定する平行尺度であり，44項目で作成されたが，20項目の短縮版も作成されている（Robin & Foster, 1989）．PEQ は青年期の子どもとその親の関係を多面的に測定できる平行尺度であり，「葛藤・関与・親への好意・子どもへの好意・規則」の５因子，42項目から構成されている（Elkins, McGue & Iacono, 1997）．しかし，これらの項目内容は，具体的な葛藤内容を提示しているわけではなく，また子育てに関してのストレスを測定している尺度ではない．米国と日本では文化や生活習慣も相違があることより，思春期の子どもと親の葛藤や衝突内容にも相違があり，養育に関するストレスも相違があると思われる．そこで，本研究では，思春期の子どもをもつ母親はどのような養育ストレスを抱えているか，またその養育ストレスをどの程度感じているか検討する．本研究では，主たる養育者を母親として，母親を対象として調査をすすめる．

思春期の親子関係の研究において，児童期から青年期にかけて親子関係は変化し（Steinberg, 2001；渡邉・平石，2010），親の養育態度は子どもの性別や学年によって相違があることが明らかにされている（Steinberg, 2001；渡邉，2013）．また，親子間葛藤においても，青年期前期が最も葛藤が多く，中期になると減少すると指摘されている（Kimberly, Laura, Jennifer, & Vicky, 2005 など）．性別においては，McGue, Elkins, Walden, & Iacono（2005）は，平均的に男性より女性の方が早熟であり，親子間葛藤について，子どもの性差を検討することは重要であると述べている．しかし，Steeger & Gondoli（2013）は，母子間葛藤は子どもの性別によって相違がなかったことを報告している．これらより，母親の養育ストレスも，子どもの性別や学年によって相違があるのか検討する．

これまでの親子間葛藤の研究において，Dekovic（1999）は12歳から18歳の子どもとその親を対象に調査を行い，親子間葛藤の頻度と子どもの抑うつとの間には正の関連があると述べている．養育ストレスにおいても，ストレスの頻度によって，ストレス反応との関連があると考えられる．また，専門職である教師や保育者のストレスとストレス反応との関連（小橋，2013；高木・田中・淵上，2006；赤田，2010；赤田・滋野井・小正・友久，2009 など），看護職のストレスとバーンアウトとの関連（塚本・野村，2007 など）などの研究も行われている．本研究も，養育ストレスがストレス反応と関連があるのか検討する．

また，親子間葛藤と養育態度との関連について，Steeger & Gondoli（2013）は11歳から13歳の子どもとその母親を対象に縦断的調査を行い，母子間葛藤は次年度の心理的統制の養育態度に影響を及ぼすことを明らかにしている．また Harold, Aitken, & Shelton（2007）も11歳から13歳の子どもとその親を対象に縦断的調査を行い，親子間葛藤が次年度のネガティブな養育態度に影響を及ぼすことを報告している．さらに，Forehand & Nousiainen（1993），Yau & Smetana（1996），Sturge-Apple, Gondoli, Bonds, & Salem（2003）は，母子間葛藤と母親の心理的統制の養育態度は，正の相関関係があると述べている．本研究においても，養育ストレスや心理的なストレス反応が養育態度と関連があるのか検討する．

以上より，本研究は，第一に思春期の子どもをもつ母親の養育ストレスとはどのようなものか，母親の養育ストレス尺度を作成し，母親はどの程



度養育ストレスを感じているのか検討する．第二に，母親の養育ストレスは子どもの性別や学年によって相違があるのか検討する．第三に，母親の養育ストレスは心理的なストレス反応に影響を及ぼし，母親の養育ストレスと心理的なストレス反応は養育態度に影響を及ぼすのか検討する．

【予備調査】

思春期の子どもをもつ母親の養育ストレス尺度を作成するために，中学生の子どもをもつ母親48人を対象として，「日常生活で，子どもの行動を観察したり，関わるなかで，ストレスに感じている出来事を記述してください.」について自由記述調査を実施した．得られた記述内容を心理学者１人，スクールソーシャルワーカー１人，中学校教師１名でKJ法にて分類した．その結果，「勉強」,「日常生活」,「子ども自身」,「親子関係」,「友人・異性」に分離することができ，24項目が採用された．

【方　法】

1．調査対象者：中学生の子どもをもつ母親702人（平均年齢（SD）：43.12（4.37））（子どもの学年・性別：１年生男子115人，女子105人，２年生男子120人, 女子105人, 3年生男子120人，女子133人，不明４人）．中学校2校に調査を依頼し，調査用紙の返却は752人であった．母親が回答した調査のみ，調査対象とした．

2．調査時期：2016年11月～12月

3．手続き：担任教諭に教示文を渡し以下の点を依頼した．①生徒に質問紙がはいった封筒を配布し，保護者に渡すこと．②回答は保護者が家庭で実施し，終了したら密封し担任教諭に提出すること．また，子どもが２人以上中学校に在籍している場合は，上の子どもを対象に回答するように依頼した．

調査表には，フェイスシートにプライバシー保護，回答の自由について明記し，参加に同意する場合のみ質問に回答するように記述した．

4．調査内容：

（1）基本的属性：調査を持参した子どもとの関係（母，父，祖父，祖母など），子どもの学年と性別，調査実施者の年齢，家族構成を尋ねた．

（2）思春期の子どもをもつ母親の養育ストレス尺度：予備調査で作成した思春期の子どもをもつ母親の養育ストレス尺度24項目を用いた．「１：全く感じない」～「６：非常に感じる」の６段階評価（１点～６点）で回答を求めた．得点が高いほど，その項目内容をストレスに感じていることをあらわす．

（3）心理的ストレス反応尺度（鈴木・嶋田・三浦・片柳・右馬埜・坂野，1997）：不安・抑うつ６項目，不機嫌・怒り６項目，無気力６項目から構成されている．「0：全くちがう」～「３：その通りだ」の４段階評価（０点～３点）で回答を求めた．得点が高いほど，心理的ストレス反応が高いことを示す．

（4）養育態度尺度：養育態度を測定するために，渡邉・平石（2007）が作成した養育スキル尺度下位尺度である理解尊重スキル10項目を用いた．理解尊重スキルは「子どもの気持ちに配慮したり，子どもに肯定的なメッセージや自立・成長を促進する態度を示したり，観察やコミュニケーションを用いて子どもに対する理解を深める態度を示す」と定義されている．「１まったくあてはまらない」～「６非常にあてはまる」の６段階評価（１点～６点）で回答を求めた．また，内海（2013）が作成した養育態度尺度下位尺度の中から，心理的統制６項目を用いた．「１まったくあてはまらない」～「７非常にあてはまる」の７段階評価（１点～７点）で回答を求めた．

【結　果】

１．思春期の子どもをもつ母親の養育ストレス尺度の因子分析

予備調査で得た思春期の子どもをもつ母親の養育ストレス尺度の24項目に対して，最尤法・Promax 回転による因子分析を行った．固有値の変化（7.05,1.90,1.72,1.37,0.96…）と解釈の可能性より，４因子構造が妥当であると考えられた．そこで，４因子を仮定して，最尤法・Promax 回転による因子分析を行った．因子負荷量の.40以下の２項目を除外した．残りの22項目を再度最尤法・Promax 回転による因子分析を行った．Promax 回転後の最終的な因子パターンと因子間相関を Table1 に示す．なお，回転前の４因子で22項目の全分散を説明する割合は54.71％であった．第１因子は「作った料理に不平を言ったとき」「朝，子どもを起こすと不機嫌なとき」など，子どもと親との関係のなかでストレスを感じる項目内容９項目から構成されているため，「親子関係」と命名した．第２因子は「試験があっても，勉強をしないとき」「宿題があっても，やっていかないとき」など，子どもが勉強をしないときにストレスを感じる内容項目４項目から構成されているため，「勉強」と命名した．第３因子は「他人に対して思いやりの気持ちがないとき」「約束をしたことを，守れないとき」など，決められたことを守れなかったり，常識的なことができないときにストレスを感じる項目内容５項目から構成されているため，「不適切な行動」と命名した．第４

Table１　思春期の子どもをもつ母親の養育ストレス尺度の因子分析

	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	共通性	平均値	SD
Ⅰ．親子関係							
8．作った料理に不平を言ったとき	**.67**	−.04	−.09	.05	.38	3.63	1.25
11．家庭の手伝いをしてくれないとき	**.65**	−.16	.03	.05	.40	3.65	1.11
7．子どもの部屋が汚いとき	**.61**	.13	−.07	−.06	.37	3.90	1.25
5．朝，子どもを起こすと不機嫌なとき	**.58**	−.02	−.06	.04	.30	3.72	1.39
6．子どもの塾などの送迎時，のんびりしているとき	**.55**	.07	−.19	.06	.25	3.29	1.40
12．時間を気にせずにダラダラ過ごしているとき	**.54**	.10	.13	−.03	.45	4.15	1.21
9．ゲームや漫画などに夢中で，話しかけても無視して返事をしないとき	**.53**	−.06	.23	−.04	.43	4.30	1.17
16．子どもがイライラして怒っているとき	**.46**	.00	.17	.01	.34	4.13	1.13
17．友人の意見は素直に聞くけど，親の意見を聞こうとしないとき	**.41**	.05	.25	.11	.47	3.80	1.13
Ⅱ．勉強							
2．試験があっても，勉強をしないとき	−.10	**.91**	.14	−.14	.83	4.86	1.16
1．宿題があっても，やっていかないとき	−.14	**.79**	.15	−.02	.66	4.54	1.23
3．予習や復習をしないとき	.14	**.73**	−.24	.07	.50	3.86	1.15
4．子どもは勉強はしているが，成績が良くないとき	.14	**.56**	−.17	.18	.39	3.86	1.19
Ⅲ．不適切な行動							
21．他人に対して思いやりの気持ちがないとき	−.18	−.07	**.79**	.06	.44	4.65	1.09
18．約束をしたことを，守れないとき	.13	−.04	**.77**	−.13	.64	4.57	1.03
23．子どもが友人の悪口を言っているとき	−.10	−.04	**.51**	.28	.32	3.92	1.16
14．やらなければならないことがあっても，すぐに行動をしないとき	.31	.10	**.50**	−.17	.57	4.61	0.97
13．子ども自身の都合が悪い場合，隠すとき	.21	.03	**.48**	−.01	.43	4.28	1.12
Ⅳ．友人・異性							
22．異性に関して興味をもっているとき	.06	−.02	−.13	**.69**	.45	2.64	1.00
20．親が良いと思っていない友人と子どもが遊んでいるとき	−.08	.14	.22	**.59**	.52	3.46	1.17
19．髪形や服装などの外見を注意しても，言うことを聞かないとき	.08	.02	.25	**.56**	.55	3.39	1.12
24．子どもの体調が悪いとき	.05	−.04	−.04	**.44**	.20	3.07	1.48

	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
Ⅰ	−	.46	.66	.61
Ⅱ		−	.57	.31
Ⅲ			−	.33
Ⅳ				−

Table２　思春期の子どもをもつ母親の養育ストレスの２要因分散分析

		中学１年	中学２年	中学３年	学年	性別	交互作用
親子関係	男	3.90(.79)	3.82(.83)	3.75(.76)	1.04	.49	.19
	女	3.90(.79)	3.87(.73)	3.83(.88)			
					η_p^2=.003	η_p^2=.001	η_p^2=.001
勉強	男	4.58(.80)	4.33(.85)	4.25(.96)	6.87**	7.76**	.19
	女	4.37(.90)	4.08(1.00)	4.11(1.11)	中1＞中2，中3	男＞女	
					η_p^2=.019	η_p^2=.011	η_p^2=.001
不適切な行動	男	4.50(.76)	4.44(.75)	4.33(.73)	2.41	.22	1.49
	女	4.51(.82)	4.27(.83)	4.41(.84)			
					η_p^2=.007	η_p^2=.000	η_p^2=.004
友人・異性	男	3.19(.84)	3.03(.88)	3.23(.87)	.54	.16	1.65
	女	3.06(.81)	3.18(.89)	3.14(.93)			
					η_p^2=.002	η_p^2=.000	η_p^2=.005

***: p<.001，**: p<.01，*: p<.05

因子は「異性に関して興味をもっているとき」「親が良いと思っていない友人と子どもが遊んでいるとき」など，友人や異性とのつきあいにストレスを感じる項目内容４項目から構成されているため，「友人・異性」と命名した．

次に，各因子の平均値（SD）と信頼性係数（α係数）を算出した．親子関係の平均値（SD）は3.84(.80)，α＝.83，勉強は4.28(.96)，α＝.83，不適切な行動は4.41(.79)，α＝.79，友人・異性は3.14(.87)，α＝.70であった．

最後に，思春期の子どもをもつ母親の養育ストレス尺度の確認的因子分析を行った．モデル適合度は，χ^2＝176.829，df＝133，p＜.01，GFI＝.978，AGFI＝.958，CFI＝.992，RMSEA＝.022であった．適合した結果が得られた．

（２）心理的ストレス反応と養育態度の平均値（SD）と信頼性係数（α係数）

心理的ストレス反応下位尺度の不安・抑うつの平均値(SD)と信頼性係数は.51(.63)，α＝.88，不機嫌・怒りは.56(.65)，α＝.90，無気力は.54(.57)，α＝.82であった．養育態度尺度の理解尊重スキルの平均値(SD)と信頼性係数は4.43(.64)，α＝.86，心理的統制は2.88(.96)，α＝.82であった．

２．思春期の子どもをもつ母親の養育ストレスの２要因分散分析

子どもの学年と性別による思春期の子どもをもつ母親の養育ストレス下位尺度である親子関係，勉強，不適切な行動，友人・異性の差異を検討するために，子どもの学年と性別を独立変数，思春期の子どもをもつ母親の養育ストレス下位尺度親子関係得点，勉強得点，不適切な行動得点，友人・異性得点を従属変数とした２要因分散分析を実施した（Table2）．その結果，学年において，勉強については，中学２年生と中学３年生の母親より中学１年生の母親の方が高い得点を示した．性別において，勉強については，女性の母親より男性の母親の方が高い得点を示した．その他は有意差が認められなかった．

３．思春期の子どもをもつ母親の養育ストレスと心理的ストレス反応，養育態度との関連

思春期の子どもをもつ母親の養育ストレスと心理的ストレス反応，養育態度との関連を検討するために，ピアソンの積率相関係数を求めた(Table3)．その結果，思春期の子どもをもつ母屋の養育ストレス下位尺度である親子関係，勉強，不適切な行動，友人・異性と心理的ストレス反応下位尺度である抑うつ・不安，不機嫌・怒り，無気力との間には有意な正の相関関係，心理的統制との間にも有意な正の相関関係が認められた．親子関係，勉強と理解尊重スキルとの間には有意な負の相関関係が認められた．抑うつ・不安，不機嫌・怒り，無気力と理解尊重スキルとの間には有意な負の相関関係，心理的統制との間には有意な正の相関関係が認められた．

Table 3　養育ストレスと心理的ストレス反応，養育態度の相関関係

	抑うつ不安	不機嫌怒り	無気力	理解尊重スキル	心理的統制
親子関係	.20 ***	.22 ***	.17 ***	−.16 ***	.28 ***
勉強	.19 ***	.15 ***	.14 ***	−.10 *	.26 ***
不適切な行動	.17 ***	.16 ***	.17 ***	.02	.17 ***
友人異性	.15 ***	.09 *	.13 ***	−.02	.23 ***
抑うつ不安	−	−	−	−.18 ***	.21 ***
不機嫌怒り	−	−	−	−.24 ***	.27 ***
無気力	−	−	−	−.24 ***	.22 ***

***: p<.001，**: p<.01，*: p<.05

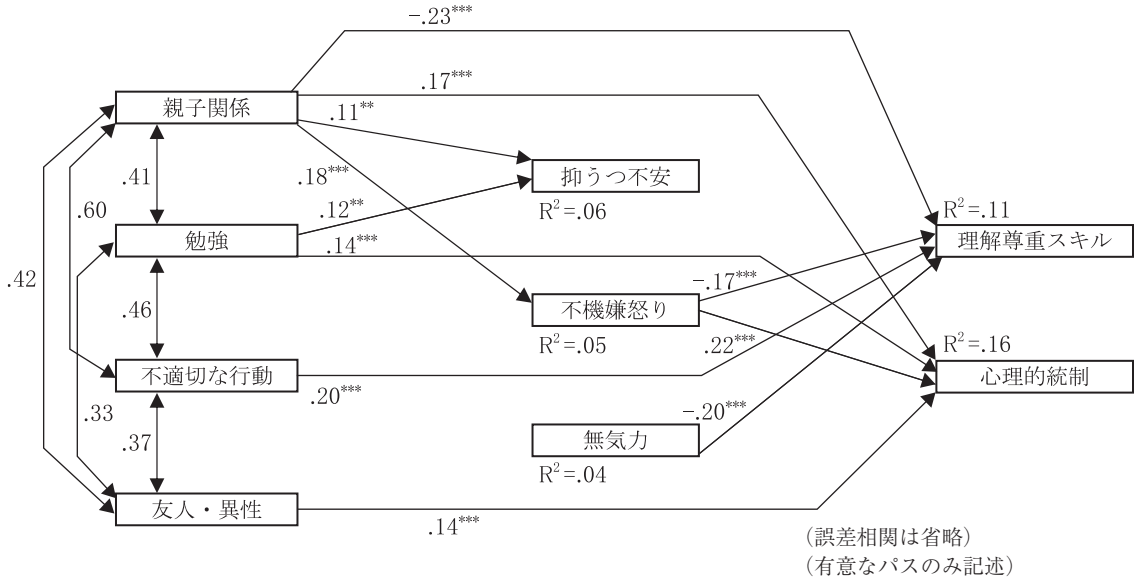


Figure 1　思春期の子どもをもつ母親の養育ストレス，心理的ストレス反応，養育態度のモデル検討

次に，思春期の子どもをもつ母親の養育ストレス，心理的ストレス反応，養育態度のモデルを検討するために共分散構造分析を行った(Figure1)．その結果，モデルの適合度は，χ^2＝5.291，GFI＝.998，AGFI＝.962，CFI＝.998，RMSEA＝.048であった．適合度指標について，GFI，AGFI，CFIは1.00に近いほど，RMSEAは.00に近いほどデータとモデルの適合度が望ましいと言われており（豊田，1998），十分な値を示しているといえる．

抑うつ不安には親子関係と勉強からのパスが有意であり，不機嫌怒りには親子関係からのパスが有意であった．理解尊重スキルには不機嫌怒りと無気力，親子関係と不適切な行動からのパスが有意であり，心理的統制には不機嫌怒り，親子関係，勉強，友人・異性からのパスが有意であった．

【考　察】

1．思春期の子どもをもつ母親の養育ストレス尺度

思春期の子どもをもつ母親の養育ストレス尺度を作成するために，中学生の子どもをもつ母親を対象に自由記述を実施し，項目を収集した．収集した項目を因子分析した結果，「親子関係」，「勉強」，「不適切な行動」，「友人・異性」の４因子を見出すことができた．「親子関係」の因子は，母親と子どもが関わる中で，子どもが母親に対して批判したり，言うことをきかないときなどに母親が感じるストレスと思われる．「勉強」の因子は，子どもが勉強をする必要があるのに，あまりしないときに母親が感じるストレスと思われる．「不適切な行動」の因子は，子どもが他者に対して芳しくない態度をしたり，決められていることがで

きないときに母親が感じるストレスと思われる．「友人・異性」の因子は，子どもが友人や異性とよくない関わりをしているとき母親が感じるストレスと考えられる．

「親子関係」の平均値は3.28,「勉強」は4.28,「不適切な行動」は4.41,「友人・異性」は3.14であった．「他人に対して思いやりの気持ちがないとき」,「やらなければならないことがあっても，すぐに行動をしないとき」など「不適切な行動」の点数が最も高く，子どもが他者に対する気持ちを軽んじたり，批判しているとき，また行動する必要があるのに行動できないときに，母親はストレスを高く感じると考えられる．母親は子どもに対して，他者に迷惑をかけないように，社会的な規範を身につけることや他者に思いやりの気持ちをもつように育ってほしいと考えていると推察できる．「試験があっても，勉強しないとき」,「宿題があっても，やっていかないとき」など「勉強」の点数も高かった．学校の勉強について，必ずしなければならない宿題や大切な試験があってもあまり勉強をしないときに，母親はストレスを強く感じると思われる．反対に，友人や異性に関する項目はあまり高い得点ではなく，友人や異性に関しては，他の因子よりあまりストレスを感じないと推察できる．

先述の親子間葛藤尺度の CBQ（Robin & Foster, 1989）は青年期の子どもとその親が家庭で，コミュニケーション葛藤行動をどの程度生じているか測定している．また PEQ（Elkins, McGue & Iacono, 1997）は青年期の子どもとその親の関係を「葛藤・関与・親への好意・子どもへの好意・規則」で測定している．本研究の思春期の子どもをもつ母親の養育ストレス尺度は，日常子どもを観察したり，子どもと関わる中で，母親がどの程度ストレスを感じるか測定する項目内容であり，また実際に中学生の子どもをもつ母親から項目内容を抽出していることから，オリジナルな尺度と思われる．

2．子どもの性別と学年による母親の養育ストレス尺度

思春期の子どもをもつ母親の養育ストレス尺度について，子どもの性別や学年によって相違があるのか検討した結果，勉強についてのみ，中学２年生と３年生の母親より中学１年生の母親の方が高いストレスを感じていた．また女子の母親より男子の母親の方が高いストレスを感じていた．小学生から中学生になると，授業内容が難しくなり，学習内容量も増加する．また定期試験も行われる．勉強をしなければならないにもかかわらず，小学生と同様にあまり勉強をしないときに，母親はストレスを感じると思われる．石田・谷山（2017）は男子より女子の方が「勉強が好き」と回答する比率が高いと述べている．女子より男子の方が勉強をあまりしない傾向が考えられ，女子の母親より男子の母親の方がストレスを感じていると推察できる．また，他の因子では相違が認められなかった．Steeger & Gondoli（2013）は，母子間葛藤は子どもの性別によって相違がなかったことを報告している．母子間葛藤とは相違はあるが，類似した結果と思われる．

3．母親の養育ストレスと心理的ストレス反応，養育態度との関連

思春期の子どもをもつ母親の養育ストレスが心理的ストレス反応に影響を及ぼし，思春期の子どもをもつ母親の養育ストレスと心理的ストレス反応が養育態度に影響を及ぼすか検討した結果，抑うつ・不安には親子関係と勉強から，不機嫌・怒りには親子関係から正の影響があった．理解尊重スキルには親子関係，不機嫌・怒り，無気力から負の影響が，不適切な行動から正の影響があった．心理的統制には親子関係，勉強，友人・異性，不機嫌・怒りから正の影響があった．子どもが母親の行動を批判したときや，学校の勉強をあまりしないときに，母親は不安になり，特に子どもが母親に文句を言ったり，無視したりすると，母親は不機嫌や怒りを感じると考えられる．また，子どもが母親の行動に対して批判や不満に感じたり，子どもが学校の勉強をあまりしなかったり，母親が子どもの友人や異性のことで心配になったり，子どもの行動に不機嫌や怒りを感じたとき，母親は子どもをコントロールする行動が強くなる傾向があると考えられる．Steeger & Gondoli（2013）は母子間葛藤が次年度の母親の養育態度の統制を

予測する．Harold, Aitken, & Shelton（2007）は母親の子どもに対する内的な葛藤が次年度のネガティブな養育態度を予測すると述べており，類似した結果と思われる．これまで，子どもの精神的な健康状態が母子間葛藤を予測するという研究は見られたが（Steeger & Gondoli, 2013; Soenens, Luyckx, Vansteenkiste, Duriez, & Goossens, 2008），本研究は母親自身の精神的な健康状態が養育態度に影響を及ぼすということを明らかにすることができた．これらより，子どもが母親の行動を不満と感じたり，母親が不機嫌や怒り，無気力であると，母親は子どもとの関係を考えて，子どもとコミュニケーションをとったり，自立や成長を促すような態度が減少すると考えられる．しかし，子どもが他者に思いやりがなかったり，友人の悪口を言ったり，約束を守らないなど，社会的な常識やモラルが欠如しているときは，母親は子どもとコミュニケーションをとり，子どもの自立や成長を育成するような態度をとる傾向にあると推察できる．母親は社会的な常識やモラルが欠如している子どもに対して，高いストレスを感じているが，子どもの成長や発達，気持ちを考えながら，子どもとコミュニケーションをとっていることが明らかになった．

【まとめと今後の課題】

本研究は，思春期の子どもをもつ養育ストレス尺度を作成し，母親の養育ストレス尺度は子どもの性別や学年によって相違が認められるのか検討した．また，母親の養育ストレスと心理的ストレス反応，養育態度との関連について検討した．母親の養育ストレス尺度を作成するために，中学生の母親から自由記述により項目を収集し，その後，質問紙調査を実施した．因子分析の結果，「親子関係」，「勉強」，「不適切な行動」，「友人・異性」の４因子を見出すことができた．母親の養育ストレス尺度下位尺度を子どもの性別と学年による２要因分散分析を実施した結果，勉強について，中学２年生と３年生の母親より中学１年生の母親の方が，女子の母親より男子の母親の方がストレスを感じていた．次に，母親の養育ストレスが心理的ストレス反応を予測するのか，母親の養育ストレスと心理的ストレス反応が養育態度を予測するのか検討した結果，抑うつ・不安には親子関係と勉強から，不機嫌・怒りには親子関係から正のパスが有意であった．理解尊重スキルには親子関係，不機嫌・怒り，無気力から負のパスが，不適切な行動から正のパスが有意であった．心理的統制には親子関係，勉強，友人・異性，不機嫌・怒りから正のパスが有意であった．母親の養育ストレスと心理的ストレス反応が養育態度を予測することが明らかになった．特に，親子関係，勉強，友人・異性の母親の養育ストレスは心理的統制を予測しており，母親に対する行動，子どもにとって重要な学習や身近との関係がよくないと，母親は子どもを統制する行動をとることが示唆された．しかし，子どもの社会的な常識やモラルの欠如は，母親が子どもとコミュニケーションをとって，子どもの成長発達を促すような態度をとることが明らかにされた．

先述した教師や保育者のストレスに関する研究は，ストレスの規定要因を検討している（高木・田中・淵上，2006；赤田・滋野井・小正・友久，2009など）．今後は，思春期の子どもをもつ母親の養育ストレスにおいても，母親や子どものパーソナリティ，家族構成などの規定要因，家族や友人のサポートなどの調整要因についても検討する．

【引用文献】

赤田太郎（2010）．保育士ストレス評定尺度の作成と信頼性・妥当性の検討　心理学研究，81，158-166.

赤田太郎・滋野井一博・小正浩徳・友久久雄（2009）．保育士のストレス要因と保育の労働環境に関する研究－身体的苦痛のストレス，保育上のストレス，家族関係のストレス，精神的健康状態，満足度を通して－　龍谷大学教育学会紀要，8，35-51.

Dekovic, M.（1999）. Parent-adolescent conflict: Possible determinants and consequences *International Journal of Behavioral Development, 23,* 977-1000.

Elkins, I. J., McGue, M., & Iacono, W. G. (1997). Genetic and environmental influences on parent-son relationships: Evidence for increasing genetic influence during adolescence. *Developmental Psychology, 33*, 351-363.

Forehand,R., & Nousiainen,S.(1993). Maternal and paternal parenting: Critical demensions in adolescent functioning. *Journal of Family Psychology, 7*, 213-221.

Harold, G. T., Aitken, J. J., & Shelton, K. H. (2007). Inter-parental conflict and children' s academic attainment: a longitudinal analysis. *Journal of Child Psychology and Psychiatry, 48*, 1223-1232.

石田浩・谷山和成（2017）．子どもの生活と学びに関する親子調査 2015-2016 －親子パネル調査による意識と実態の変化－　ベネッセ総合教育研究所

Jennifer,T., Judith,W., Rosemary,T., & Jennifer,M. (2010). Parenting stress in family of children with ADHD: A Meta-Analysis. *Journal of Emotional Behavioral Disorders, 18*, 1-16.

Kimberly,R., Laura.L., Jennifer,E.S., & Vicky, P. (2005). Gender and age differences in the topics of parent-adolescent conflict. *The Family Journal, 13*, 139-149.

Klahr,A.M., Rueter,M.A., McGue,M., & Iacano,W. G.(2011). The relationship between parent-child conflict and adolescent antisocial behavior: Confirming shared environmental mediation. *Journal of Abnormal Psychology, 39*, 683-694.

小橋繁男(2013)．小中学校教師のストレスとバーンアウト，離職意思との関係　日本保健学会誌，**15**，230-259.

前田薫・中北裕子（2017）．乳幼児をもつ母親の育児ストレスの要因に関する文献検討　三重県立看護大学紀要，**21**，97-108.

McGue, M., Elkins, I. J, Walden, B., & Iacono, W. G. (2005). Perception of the parent-adolescent relationship: A longitudinal investigation. *Developmental Psychology, 41,* 971-984.

西平直喜（1990）．成人になること－生育史心理学から－　東京大学出版会

落合良行・佐藤有耕（1996）．親子関係の変化からみた心理的離乳への過程の分析　教育心理学研究，**44**，11-22.

Robin, A. L., & Foster, S. L. (1989). *Negotiating parent-adolescent conflict. A behavioral-family systems approach*. New York, NY: Guilford Press.

白井利明（2015）．青年期のコンフリクトを親子はどのように体験するか－前方視的再構成法を使って－　青年心理学研究，**27**，5-22.

Smetana, J. G. (2011). Adolescents, families, and social development: How teens construct their worlds. Chichester, England: Wiley-Blackwell.

Soenens, B., Luyckx, K., Vansteenkiste, M., Duriez, B., & Goossens, L.(2008). Clafifying the link between parental psychological control and adolescents' depressive symptoms: Reciprocal versus unidirectional models. *Merrill-Palmer Quarterly, 54*, 411-444.

Steeger, C, M., & Gondoli, D. M. (2013). Mother-adolescent conflict as a mediator between adolescent problem behaviors and maternal psychological control. *Developmental Psychology, 49*, 804-814.

Steinberg, L. (2001). We know some things: Parent-adolescent relationships in retrospect and prospect. *Journal of Research on Adolescence, 11*, 1-19.

Sturge-Apple, M. L., Gondoli, D. M., Bonds, D. D., & Salem, L. N. (2003). Mothers' responsive parenting practices and psychological experience of parenting as mediators of the relation between marital conflict and mother-preadolescent relational negativity. *Parenting: Science and Practice, 3*, 327-355.

杉村和美・竹尾和子・山﨑瑞紀（2007）．青年－両親間の葛藤調整過程に関する面接調査　発達科学研究教育センター紀要，**21**，39-54.

鈴木伸一・嶋田洋徳・三浦正江・片柳弘司・右馬

埜力也・坂野雄二（1997）．新しい心理的ストレス反応尺度（SRS-18）の開発と信頼性・妥当性の検討　行動療法研究，**4**，22-29.

高木亮・田中宏二・淵上克義（2006）．教師の職業ストレッサーにおける職業環境の要因と職務自体の要因がバーンアウトに与える影響の検討－職場環境要因が及ぼす緩衝効果（交互作用的効果）を中心に－　岡山大学教育学部研究集録，**131**，155-165.

豊田秀樹（1998）．共分散構造分析（入門編）：構造方程式モデリング　朝倉書店.

塚本尚子・野村明美（2007）．組織風土が看護師のストレッサー，バーンアウト，離職意図に与える影響の分析　日本看護研究学会雑誌，**30**，55-64.

内海緒香（2013）．青年期養育尺度（PAS）の作成．心理学研究，**84**，238-246.

渡邉賢二・平石賢二（2007）．中学生の母親の養育スキル尺度の作成－学年別による自尊感情との関連－　家族心理学研究，**21**，106-117.

渡邉賢二（2013）．思春期の母親の養育態度と子育て支援－母親の養育スキルとは－　ナカニシヤ出版

Yau,J., & Smetana,J.G.(1996). Adolescent-parent conflict among Chinese adolescents in Hong Kong. *Child Development, 67*, 1262-1275.

The relationships among mother's parenting stress having puberty child and psychological stress response, parenting attitude

Kenji WATANABE

Abstract:

This study was to develop mother's parenting stress scale having puberty child, investigate the difference of mother's parenting stress by sex and grade in child, and the relationships among mother's parenting stress and psychological stress response, parenting attitude. Mother's parenting stress was to get 4 factors; mother-child relationship, study, maladjustment behavior, friend and different sex. Mothers having first grade at junior high school felt parenting stress more than mothers having second and third grade at junior high school. Mothers having boys felt parenting stress more than mothers having girls. Depression-anxiety predicted mother-child relationship, study. Irritability-anger predicted mother-child relationship. Understanding-respect skills predicted mother-child relationship, maladjustment behavior, irritability-anger, and helplessness. Psychological control predicted mother-child relationship, study, friend and different sex, irritability-anger.

Keywords: mother's parenting stress, puberty, psychological stress response, parenting attitude